



ボラスグループの研究開発部門・ボラス暮らし科学研究所でパッシブ設計に従事している。大規模分譲としてグループ初のパッシブ本格導入となった「大宮ヴィジョンシティ・みはしの杜」(125区画、埼玉県)の設計に尽力した。同分譲地が国土交通省の2013年度第1回住宅・建築物省CO₂先導事業に採択された後は、今年8月発売の「リーズン船橋・高根台」(102区画、千葉県)のパッシブ設計を担当。オリジナル耐力壁など、これまでにボラス暮

し科学研究所が開発した優れた商材にも支えられ、グループが供給する分譲地の環境性能向上に心を配っている。理科系大学の建築学科に所



3歳の長女・1歳の長男を持つ2児のパパ。「子供のための料理も作ります」

属していた4年次、住宅関係の国の研究機関の代表格といえる建築研究所に、研究の補助で通いつめた。理論を現実に反映させる取り組みに、興味があったからだ。

原点は、断熱が不十分で特に夏と冬は戸外と室内の環境が連動していた、古い戸建住宅の実家暮らし。過ごしやすいうちとそうでない部屋は、四季の移ろいと共に変わっていく。学生時代、意匠に関心を示す学生が多い中、自然環境と住宅の関わりにこだわりをもち、知識を吸収していた。休日、気分転換にと自転車に乗る時でも、周りの街並みと環境との関係が気になってしまふ研究者肌。(え)

ボラスグループが供給する大型分譲のパッシブ設計を担当

ボラス暮らし科学研究所住環境G主任 福代昇一さん